JAERA Newsletter

2011．11．4
Vol.　26

一般社団法人　日本ELVリサイクル機構　ニュースレター

目次:

・インストラクター研修会　1
・損保業界
　リサイクル部品活用宣言　1
・行政ニュース　1
・投稿（2件）　2
・読書感想（投稿）　2
・地方便り　2
・スクラップ市場　3
・編集後記　3

私たちはエアバッグ類の適正処理を励行します！

2011年度　インストラクター向けブロック研修会開催について

ELV機構の行事カレンダーで中心的な位置を占めるインストラクター研修会が本年も始まります。2007年の初回から数えて今回で5回目になる研修会ですが、会員の法律遵守並びに適正処理意識の育成に大変貢献してきたといえましょう。 また、昨年度から、インストラクター制度を更に発展させ、自再協の要請を受けて新たにエアバッグの車上作動契約を締結する解体業者の指導をおこなう「安全指導員」制度がスタートし、現在、全国で22名のインストラクターが「安全指導員」として活躍しています。 ELV機構の組織で、外部協力機関等との調整を行いながらインストラクター研修会を企画・立案し、各ブロックと協力して全国展開するのは「リサイクル技術部会」（吉川部会長代行）です。 同部会では、今年度の研修会に関して次のような基本方針を掲げて準備にあたりました。

- 会員からの意見、要望などを精査し、実現可能なものから順次取り入れる
- インストラクター研修会の内容の一層の充実を図る
- 地域講習会（インストラクターを講師としての地域団体主催の講習会）に先立ち、講演スキル向上に向けたリハーサルを行う

インストラクター研修に関して、会員各位のご理解とご協力をお願いします。

□なお、本年度の各ブロック毎の開催日程は次の通りです。

ブロック名	月・日・曜日	開始～終了	会　　場	所　在　地
北海道	11月28日・月	10:00~16:00	北海道自動車処理協同組合	札幌市白石区菊水元町1条2－2－6
東北	11月　8日・火	↑	仙台地域職業訓練センター	仙台市泉区高森2－1－39
関東東 関東中 関東西	11月17日・木	↑	5東洋海事ビル	東京都港区新橋3－2－5
中部	11月14日・月	↑	㈲名古屋解体メイカイパーツ	名古屋市守山区下志団味落合376
近畿 中国 四国	11月　4日・金	↑	イベントホールみのるガーデン	岡山県岡山市北区柳町　1－4－8
九州 沖縄	11月21日・月	↑	福岡中小企業振興センター	福岡市博多区吉塚本町9－15

～行政ニュース～

この度、厚生労働省は「除染作業等に従事する労働者の放射線障害防止対策に関する専門家会議と称する検討会を設置しました。 原発事故により放出された放射性物質に係る除染作業や廃棄物処理に従事する労働者を対象に、電離放射線障害防止規則（現行規則）の他に必要と考えられる放射線障害防止対策についてのガイドラインや新たな規則の検討を行うものです。先般第一回会議が開催され、次回10月の会議の後、更に2回の会議が予定されており、パブリックコメントの募集、関連審議会における議論を踏まえて来年1月にガイドラインや新たな規則の施行を目指すとのことです。　□

損保業界　～リサイクル部品の活用を宣言～

去る10月19日、日本損害保険協会（以下、損保協会）は、会員各社がリサイクル部品の活用を宣言し、かつ、リサイクル部品活用推進キャンペーンを行うことを公表しました。 協会のニュースリリースによると、損保各社は、自らがリサイクル部品を積極的に活用することを周知・徹底するに併せ、関係省庁の後援及び関係団体の協賛を得て、自動車ユーザーに対しリサイクル部品の活用を訴えるキャンペーンを11月から実施することを決定しています。 また、ニュースリリースには、損保協会が取り組みの一環として自動車ユーザー並びに修理工場を対象に、リサイクル部品に関する意識調査を行った結果、リサイクル部品を使ったことがあると回答をした1，073人の87％が「満足した」と答えたと述べています。

□自動車ユーザーを対象とした調査

5，116名の自動車ユーザーを対象としたアンケートでは、リサイ↗クル部品を使ったことがあると答えた1，073人（21％）の87％が「使用したことに満足した」と答えており、満足の理由の中で「修理費用が安かった」が最も多く85．6％、次いで「品質が新品と変わらなかった」が51．2％であった。

□整備・修理業者を対象とした調査　（回答290名）

- リサイクル部品を使用した車のうち、新車登録後3年以上9年未満のものが77．5％、3年未満が9．8％であった。
- 「新品部品を使うよりリサイクル部品、リビルト部品は経済的かつCO2排出量の削減に役立つとの説明をすると99％の顧客がリサイクル部品、リビルト部品での修理を希望するとの結果が出ている。

なお、損保協会のプレスリリース並びにアンケート調査の結果は、以下のELV機構webサイトからご覧いただけます。
http://www.elv.or.jp/ss/11-29-0.html

《編集・発行人》　一般社団法人　日本ELVリサイクル機構　広報部会
〒105－0004　東京都港区新橋３丁目２番２号　一美ビル　Tel: 03-3519-5181　Fax:03-3597-5171
E-mail:　jaera-office2@clock.ocn.ne.jp　URL:　http://www.elv.or.jp/

～投稿～

南米スリナム向けコンテナーのバンニングの際、仕向け国の要求で放射線量の検査を受けることになりました。我が国が認定した業者により検査が実施され証明書が発行されますが、受検行為が国の補助事業になっており、中小企業の場合検査費用の90%が補助対象となります。当社が受検したのは一般社団法人 全日検という機関で、本業は輸出入貨物の検査を船側で行う業者さんです。申し込み段階でプロフォーマインボイスを提出し、積み込み時に全品を線量計で検査していました。検査結果は、ノーズカットの1点が規制値の0.3μ SV/Hを超えていたため貨物から除外しました。部品どり車両は千葉県で発生した下取り車ですが、地域によってホットスポットがあるようです。今後時間が経つほど影響が出るのではないかと心配です。 当社では7月に線量計を購入してあったのですが、検査後に自社のカウンターで測ったところ、検査業者の数値より大分低い値が出たことが気になります。業者の線量計はアメリカ製の高そうなもので、当社のはロシア製の安ものですが・・・ なお、検査費用は全日検査(往復の移動時間+検査時間)で75,000円でしたが、補助金のおかげで当社の負担は7,500円と交通費ということになりそうです。 □ （Y. S. ）

～投稿～

「リボーン・カーリース」を立ち上げてから3年の月日がたちました。スタートしてから順調に台数が増え、現在では130台の自動車がリース車輌として稼働しています。ユーザー層として、「どうしても生活のためには自動車が必要」という必要に迫られたユーザーが圧倒的に多いのが特徴です。当初、想定したユーザーは単身赴任者、学生などでしたが、ふたを開けてみると想定外のユーザーが多いことに驚きました。母子家庭の母親、また定年退職された方はローンが通らないため苦労していたのです。事情があり自動車が購入できないユーザーにとっては、まさに「渡りに船」的な役割なのです。「リボーン・カーリース」は、リース期間、価格をリーズナブルな設定にしたことが人気の秘密です。特にリース期間は、一ヶ月単位で自由に設定可能です。これらの設定は、中古車を素材にリサイクル部品で修理をおこない、かかる経費を極力抑えることにより可能となりました。リースで役目を終えた自動車は、最終的には使用済み自動車として処理されることになります。最後の最後まで自動車本来の役割を果たすことで、ユーザーも喜んでいただける新しい自動車リサイクルの形で社会に貢献して行けたらと考えております。□

㈱永田プロダクツ 代表取締役 永田 則男 （ELV機構会員）

～読書感想～

かつて「世界がもし1000人の村だったら」と題するコラムを新聞に掲載したのは2001年に59歳で亡くなったアメリカの生物物理学者ドネラ・メドウス博士です。 よく知られている「世界がもし100人の村だったら」は、彼女のこのアイディアがネット上で広く伝わっているうちに1000人が100人になったと聞きました。学者である彼女は、1972年に発表されたローマクラブの報告書「成長の限界」の主たる執筆者でした。世界で300万部も売れた同報告書は、世界のマスコミに大きく取り上げられ、あたかも世界の破滅の宣言書のような扱いを受けたためドネラ博士はマスコミの一方的な取り上げ方に不満を持ち、以降、彼女の考えが正しく世に伝わるよう、亡くなるまで25の新聞に計800本を超えるコラムを掲載しました。 そのコラムの一部を環境ジャーナリストの枝廣淳子氏が丁寧に翻訳したものが『地球の法則と選ぶべき未来』(ランダムハウス講談社)です。 発刊は2009年なので決して新刊書ではありませんが、未曽有の震災と原発事故に見舞われた中で、我が国が将来の方向を選択する際に参考になる、示唆に富んだ内容なので改めて評判になっています。メドウス博士は、現在我々が直面している「危機」は、決して人々が言うとおり『地球の危機』ではなく、我々人間の危機だと言っています。即ち、40億年の歴史を持つ地球は、たかが200年余りの人間の経済的、社会的営みに左右されることはないというのです。 地球や自然をコントロールするのではなく、人間が人間自身、即ち、増える人口、貪欲さ、傲慢さ、浪費をコントロールできるかが問われているのだと彼女は言っています。□ （編集子）

～ 各 地 か ら の お 便 り ～

福島県自動車リサイクル協同組合は、10月22日(土)、猪苗代町堅田の湖岸で行われた「猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会」の猪苗代湖ボランティア清掃に参加しました。当日、県や猪苗代町、各種団体やボランティアら約150人が参加し、組合からは全25社中13人が参加して、北岸から湖に注ぐ小黒川河口付近の湖岸でゴミ拾いなどを実施しました。 原発事故の影響を懸念し、環境放射線量を計測しながら毎時0，12マイクロシーベルトであることを参加者に示しながらの清掃作業となりました。 また、枯れると水質汚濁の一因とされるヨシも撤去し、時折雨が降る中、参加者は清掃に励みました。 近年猪苗代湖の水質は、県の水質測定によると中性化が進んでおり、大腸菌群が確認されるなど汚染が進んでいるようです。組合では、大切な環境を自らの手で守る為にも微力ながら今後もこのようなボランティア活動にも、積極的に参加していきたいと考えています。 □

参加した組合員の勢ぞろい

湖岸の葭原も清掃します

（福島県自動車リサイクル協同組合 理事長 田村 幸男）

スクラップ市場　最新情報

情報提供:㈱日刊市況通信社

10月は全国的に下落基調続く　東京製鉄は1カ月で6,500～8,000円値下げ

10月の鉄スクラップ市況は、全国的に電炉筋への入荷が好調な状態が続き、月を通じて値下がりが続いた。東京製鉄は10月だけでも全工場で計11～12回、6,500～8,000円の値下げを実施、さらに他の国内電炉も値下げの動きとなったことから、10月第5週末のH2全国炉前総合価格は、27,033円（前月末比7,400円安）にまで下落。日本の国内相場は国際相場に先行

＜10月末（31日）の国内スクラップ炉前実勢価格＞

		H2			気配
関東	北関東	26,500	～	28,000	値下がり
	南関東	26,500	～	28,000	値下がり
名古屋		27,000	～	28,000	値下がり
関西	大阪	27,500	～	29,500	値下がり
	姫路	27,000	～	27,500	値下がり

して値を下げた。また、高炉購入☆☆量が10月は15万ﾄﾝ強と09年8月以来の低い水準にまで落ち込んだこと、輸出成約の低迷が続いて船送りが停滞したことも相場下落の要因になった。その輸出成約価格も弱含みで推移。31日時点の韓国ミルとのH2交渉価格は1ﾄﾝ（FOB）26,000～26,500円どころ（前月末比7,500円安）となった。

日本の鉄スクラップ輸出量、9月は46万3千ﾄﾝ　～2カ月連続で前年同月比増加～

財務省・貿易統計によると、9月の日本の鉄スクラップ輸出量（HSコード7204の合計）は、前月比5.8%減、前年同月比0.4%増の46万2626ﾄﾝで、2カ月連続で前年同月比プラスとなった。4月から7月までは20～30万ﾄﾝ台にとどまっていたことを考えると、この2カ月間は比較的輸出量が多い結果となった。関東地区　1カ月で9,000円どころ下落、関東電炉は29日から1,000円どころ下げ

関東地区のH2の炉前実勢価格は足元で26,500～27,000円中心、高値28,000円見当。10月だけで9,000円どころの値下がりとなった。契約納入制の王子製鉄を除く全ての関東電炉は10月29日、東京製鉄が全工場の鉄スクラップ購入価格を1,000円☆☆値下げしたことを受けて、500～1,000円どころの値下げを実施した。また、高炉筋も購入価格を↗　↗1,000円引き下げた。また輸出や西送りの数量が少なく、荷余り感は強い。

東海地区　10月の域内下げは11回、H2実勢27,000～28,000円中心へ急落

名古屋電炉5社は29日から購入価格を一律1,000円値下げした。東京製鉄の値下げにほぼ追随しており、10月の下げ幅は11回前後で計8,000円どころの急落だ。市中老廃スクラップは発生減で、ヘビー類に荷余り感は見られないが、新断スクラップはなお供給が消費を上回るかたちで需給緩和が続くなど、市況は弱気配のまま月替わりを迎えた。H2の炉前実勢価格は27,000～28,000円中心。

関西地区　大阪は29日にも電炉値下げ広がる、姫路も同日1,000円下げ関西地区では10月29日にも電炉値下げが一巡

し、下落局面が続いている。輸出の停滞を受け中部以東からの内航西送りは続いているものの、その出荷先は限▲▲られたままだ。「出荷先の増加、輸出大量成約等がないと、底値感が出ない」（商社）との見方が強い。大阪地区のH2の実勢価格は27,500～29,500円。姫路地区の電炉4社も、29日から鉄スクラップ購入価格を1,000円引き下げた。姫路地区のH2の実勢価格は現在27,000～27,500円。　□

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月31日時点のもの）

～編集後記～

◇今年も、インストラクター研修会の季節となった。今回で5回目を数えるプロジェクトであるが、開催計画を案等する部会は毎回大変な思いで取り組んでいる。　回数を重ねると、そろそろマンネリ化か！などと云われかねないし、研修内容の充実、資料作成など大変なご苦労だ。　目指すところは業界の高度化、適正処理の徹底か。受講するインストラクターの皆さんも心して臨んで頂きたい。

◇損保協会が、リサイクル部品の活用、普及に向けて本格的に動き出した。自動車先進国の中でも補修部品に占めるリサイクル部品（リビルト部品を含む）の割合が最も高いと言われているカナダでは、リサイクル部品に有利な保険商品が多数販売されていると聞いたことがある。　我が国の損保業界がそこまで踏み込んでくれることを心より願いたい。

◇以前の本誌でも紹介したが、中国の江蘇省・張家港市には巨大な自動車リサイクル工場があるという。既に見学された会員↗↗も相当数に上るであろう。先般、そこに向けて九州から数百台の車が積み　出された。当初の華々しい話と比べると、今回日本から送られた規模は十分の一にも及ばないが、すぐ近くの中国に、そのような巨大な施設がオキアミを飲み込むクジラのように巨大な口を開けて待ちうけているのは空恐ろしい気がする。利用するかしないかは各企業の判断に委ねるしかないが、慎重な対応が必要と思われる。

◇リボーン（re-born：生まれ変わりという意味か）カーリースの投稿があった。中古部品で補修した車のリースはリユースの極みか。素晴らしい取り組みであると思う。

◇電気自動車や携帯電話などに搭載する電池の技術は、現在最も盛んな国際的な開発競争の真っただ中といえようが、最近の報道によると日本の企業、研究所が相次いで現在主役格のリチウムイオン電池を性能的に凌駕する新型電池の開発を報告した。実用化までにはまだ時間を要するが、成功すれば画期的な新電池の登場ということになろう。□　　（編集子）